



# 六中だより

～学校教育目標～

“ 学力と情操 ”

“ 健康と忍耐力 ”

“ 勤労と責任 ”

## コロナ禍の今だからこそ

校長 相馬 朋行

令和4年になって1ヶ月が経ちました。

令和2年1月15日に国内におけるコロナウイルス感染者が初めて確認されました。そのちょうど2年後となる今年の1月15日には累計感染者数が183万人を超えました。すでにオミクロン株による感染急拡大のため第6波に入っています。

そして、東京都では1月21日、まん延防止等重点措置が適用されました。

一方、1月15日午後1時10分ごろ、南太平洋のトンガ諸島で大規模な海底火山噴火がありました。その影響で鹿児島県や岩手県で津波が観測されたことを受けて、気象庁は津波警報を発令しました。日本の8県で少なくとも10万世帯、22万人に避難指示が出されました。現地では、噴火による降灰と津波で国民のおよそ84%に被害が及んだと推定されています。世界中の国々からは救援物資が到着し、復旧に向けて国際的な経済支援も開始されました。

コロナ禍に関わらず、災害は突然起こります。トンガ諸島の方々の心情を慮る（おもんばかり）といたたまれない気持ちになります。

日本でも平成23年3月11日に東日本大震災が発生し、未曾有の被害がもたらされました。震災後しばらく経ったときに、女優の東ちづるさんがあるテレビ番組で被災地の方々に向けて次のようなメッセージを届けました。

「被災地のみなさん、お疲れさまでした。これまで本当によくがんばってこられたと思います。でも、もうがんばらないでください。これからは私たちががんばる番です。」

このメッセージは今でも私の心に強く残っています。

東ちづるさんはもともとボランティア精神が旺盛な方で、骨髄バンクの活動への支援に携わり、事故などによる遺児を経済的に支える「あしなが育英会」や戦争などで傷ついた世界の子どもたちを守る「ドイツ国際平和村」の活動などにも支援をしてきました。

東ちづるさんは東日本大震災のときは「自分が何かできることはないか」と考え、障害者が描いた絵画などを売って、売上金の9割を被災地に届けたそうです。

今回のトンガ諸島の被災者の方々に対して私たちが実際にできることはあまりないかもしれませんが、しかし、身近にも何かの事情で困っている人はきっといるはずです。そういった人たちに対して、やってあげられることはないかと考えるのは大事なことです。

コロナ禍の今だからこそ、人と人との絆を深め、互いに励まし支え合い、困難をともに乗り越えていくことが私たちにとって肝要なことだと考えます。



～1月8日（土）どんど焼き設営 ボランティア～

1月8日（土）～10日（月・祝）今春2年ぶりの実施となる

押立地域のどんど焼きが行われました。

六中生は初日の8日（土）設営時、ボランティアとして参加しました。

地域の大人に教わりながらどんど焼き・塔を創り上げていく経験は貴重なものになりました。



壁面のわらを敷き詰めるところ



塔の壁面がだんだん高くなる場所

～1月・昼休みの風景～

寒さの厳しいこの頃です。しかし、そんな気候をはねのけるかの如く、昼休みになると校庭ではボール遊び等をしている姿が見られます。



健康委員によるボール貸し出し



昼休み 校庭

**2月の主な予定**

2日（水）午後カット

府教研発表会

3日（木）中央委員会

5日（土）土曜授業日（非公開）

7日（月）専門委員会

9日（水）生徒会朝礼（放送）

16日（水）全校朝礼（放送）

職員連絡会

17日（木）避難訓練

22日（火）安全指導日

24日（木）学年末テスト 美・理・音

25日（金）学年末テスト 国・英・保体

28日（月）学年末テスト

社・数・技術（1年）家庭（2年）

